

本校のふるさと教育についての記事が読売新聞に掲載されました。

読売新聞 平成31年4月27日付

◇利尻高校 普通科と商業科があり、現在の全校生徒数は71人。1957年、町立の定時制水産科高校として開校し、62年、全日制普通科、商業科が設置された。65年、道立に移管した。校訓は「**静風剛健**」。

「30分を過ぎたあたりで膝が痛くなり、棄権したくなっただけれど、沿道の人から『頑張れ』って励まされ、何とかゴールできました」
利尻島唯一の高校、利尻高校（阿部福校長、利尻町）。商業科2年の車谷愛恋さん（16）は、入学3か月目の昨年6月に参加した53・7分・1秒の利尻島一周ランニングをこ

ふるさと 授業

④

島一周ラン 郷土愛育む

利尻高校（利尻町）



昨年6月の利尻島一周ランニングに参加した生徒。106年ぶりに同島にヒグマが上陸し、全員が鈴を付けて走った（利尻高校提供）

う振り返る。
次に目指すのは、卒業まで3年連続で全島一周を達成すること。昨年の体験が大きな自信につながっているという。
全島一周は、同校が1988年度に始めた「ふるさと教育」の柱の一つだ。昨年は53・7分・1秒、14・1分・1秒の二つのコースにそれぞれ57人、7人が参加。前者では6

割強に当たる36人が、後者は全員が完走した。
「離島だからこそできる特色ある活動を」。ふるさと教育はこう思う教職員のエネルギから生まれたという。全島一周、利尻山登山、礼文島トレッキングの3本立てで始まったが、生徒の安全や運用の面から、2016年度に内容を一新。現在は全島一周、利尻山登山のほか、国語や日本史などの授業で島を学ぶ「ふるさと学習」、地域行事への参加を促す「ふるさと貢献」などからなり、幅広く郷土への関心と理解を深める。
教職員でつくる「ふるさと教育委員会」の委員長、山田美智子教諭（39）は「（教職員）の先輩たちの思いを継承していきたい。生徒には、ふるさとに誇りを持ち、体験を通じて自分の言葉で利尻の魅力を伝えられる人になってほしい」と語る。